令和２年度　珠洲市立正院小学校　後期学力向上プラン

プラン名　極（きわめる）・ホップステップジャンプとダブルジャンプの二刀流（ベネッセ・応用・前年度平均－５%以上）

12か条＋(プラス)
2条　8条

1　授業づくり

⑴　現状と課題（R）

課題

前期同様，学校全体で活用力アップに向けた取組を十分に行うことができた。
特に，学ボードや学習掲示板を効果的に使うことができた。
児童は，教師とのやりとりから，どの既習を使うか考えられるようになってきた。
そのため，活用力は向上しつつある。

しかし，どのように考えたか思考の過程が分かる書き込みが少ない。
つまり，自分の考えを正確に記述する力が十分身に付いているとは言えない。

現状（科学的データ）

令和２年度　中期学力向上プラン　授業づくり

評価項目				評価（結果）
たしかめようテスト	１・２年 対象 各学年	前年度同一母集団ベネッセ 活用力 平均　約－５% 【数値維持】	１年　% ２年　%	１年　% ２年　%
活用する力をみるシート	３～６年 対象 各学年	前年度同一母集団ベネッセ 活用力　平均以上 【数値変更】	３年　%　４年　% ５年　%　６年　%	３年　%４年　% ５年　%６年　%
活用する力・問題解決の力をみる問題	各学年	前年度同一母集団 平均以上【数値変更】	１年　%　２年　% ３年　%　４年　% ５年　%　６年　%	１年　%２年　% ３年　%４年　% ５年　%６年　%
	全学年	領域別正答率 【数値維持】	%以上	A：　%B：　% C：　%D：　%
ダブルジャンプ取組	各学年	前年度年間平均 【数値変更】	%以上	１年　%２年　% ３年　%４年　% ５年　%６年　%
研究授業	３段階 B評価	前年度年間平均 【数値維持】	%以上	%
振り返りシート	３　ズバリ 強肯定	前年度３月平均 約－５%【数値維持】	%以上	%

令和２年度　中期学力向上プラン　基盤づくり

９月　返事ができる子（返事） 67%→80%→88%→94%→97%→98%	◎	１１月相手に伝えようとする子（声の大きさ） 84%→91%→97%→96%→98%→95%→100%	◎
１０月　返事ができる子（反応） 98%→100%→98%→95%→100%→98%→100%	◎	１２月相手に伝えようとする子（相手を見る） 92%→86%→98%→97%→92%→100%	◎
		２学期　99.5%	◎

令和２年度　県評価問題（自校採点）

県評価問題（５年・算数）	平均正答率（１５問）　%			思判表（６問）　%		記述式（５問）　%	
記述式の分野別正答率	方法　%	事実　%	理由　%				
領域別正答率	A数と計算　%	B図形　%	C測定・変化　%	Dデータの活用　%			
3（２）400÷25 数選択	%	4 5つの数の和記述	%	6（１）ひし形わけ記述	%		
2（１）立方体数短答	%	5（１）数の意味記述	%	5（２）グラフの意味選択	%		

［要因］
◎前期同様，中期も活用力アップに向けた取組が実施できた。
◎学ボードと学習掲示板の利用によって，既習を児童と教師が確かめることができた。
◎お手本しずこの取組により，県評価問題における見本を使い，自分の考えを書く問題の正答率は高かった。
△県評価問題の領域別では，データの活用が，他の領域より低い。
△データの活用において，問題文や資料（表・グラフ）の読み取りが不正確である。
△条件を整理して，式や数の意味をとらえることが不十分である。
△どのように考えたかが分かる書き込みが少ない。

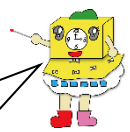
⑵　計画と実行（P・D）

後期目標

①児童だけで課題解決に必要な既習を選ぶことができる。
②どのように考えたか思考過程が分かる書き込みをする。
↓
自分の考えを正確に記述することができる。
中期最終共通実践
【つまずいた子が戻れるズバリと学ボード】

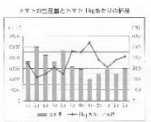
具体的取組

中期プラン【継続】
①学ボードや児童とのやりとりから，既習の活用（ズバリボード）を，明確化する。
②既習を学ボードと学習掲示版に貼る。
③本時のねらいに合わせて，「お手本しずこ」と「どーなつボード」を使う。
④単元末に，活用力アップに関わる「ダブルジャンプ問題」に取り組む。
※「ズバリボード」を重点的に取り組む。



後期プラン【新規】
・ダブルジャンプ問題２（思判表）の正答率や解き方を分析する。
・県評価問題5の類題を学年に応じた問題に修正して取り組む。（１月第５週）

令和２年度　５年県評価問題（算数）
●●の期間は，生産量は増えたり減ったりしているのに，値段は上がり続けているよ。
問題
●●は，どの期間か？
ア４月から６月まで　イ７月から９月まで　ウ１０月から１２月まで　エ１月から３月まで



評価項目				評価（結果）
ベネッセテスト【新規】	各学年	前年度同一母集団・ベネッセ応用 平均－５%以上【新規】	１年　%　２年　% ３年　%　４年　% ５年　%　６年　%	
たしかめようテスト	各学年	前年度同一母集団・ベネッセ基礎 平均－５%以上【新規】	１年　%　２年　% ３年　%　４年　% ５年　%　６年　%	
活用する力・問題解決の力をみる問題	各学年	前年度同一母集団 年間平均以上【数値維持】	１年　%　２年　% ３年　%　４年　% ５年　%　６年　%	
	全学年	領域別正答率　【数値維持】	%以上	
ダブルジャンプ問題	各学年	ダブルジャンプ問題２正答率【新規】	%以上	
研究授業	３段階 Ｂ評価	前年度年間平均　【数値維持】	%以上	
振り返りシート	３ ズバリ 強肯定	前年度３月平均　約－５% 【数値維持】	%以上	

⑶ 検証と改善策（C・A）

月	評価項目（誰が，いつ）	結果	改善策
1	□活用する力をみる・問題解決の力をみる問題（学担，第５週）		
	□振り返りシート（学担，検証・検証支援，第５週）		
2	□研究授業　徳成（全員，２日）		
	□ベネッセテスト・応用（検証・研修支援・第４週）		
	□活用する力をみる・問題解決の力をみる問題（学担，第５週）		
	□振り返りシート（学担，検証・検証支援，第５週）		
3	□活用する力をみる・問題解決の力をみる問題（学担，第４週）		
	□振り返りシート（学担，検証・検証支援，第４週）		
	□ダブルジャンプ問題（学担，検証・検証支援，第４週）		
	□たしかめようテスト（学担，検証・検証支援，第４週）		

２　基盤づくり

後期目標	具体的取組	評価	
話を最後まで聞く姿と いすにしっかり座る姿を高める。 （学校全体・各月 85%以上）	【継続】 ・生徒指導主事が，集会で良い姿の大切さを指導する。 ・児童会運営委員会担当が，委員会活動で月目標に反映させる。 ・学級担任が，強化日（毎週火金）に，児童に自己評価させる。 ・めざす正院っ子の姿をできるだけ具体化する。	１月	
		２月	
		３月	
		３学期	